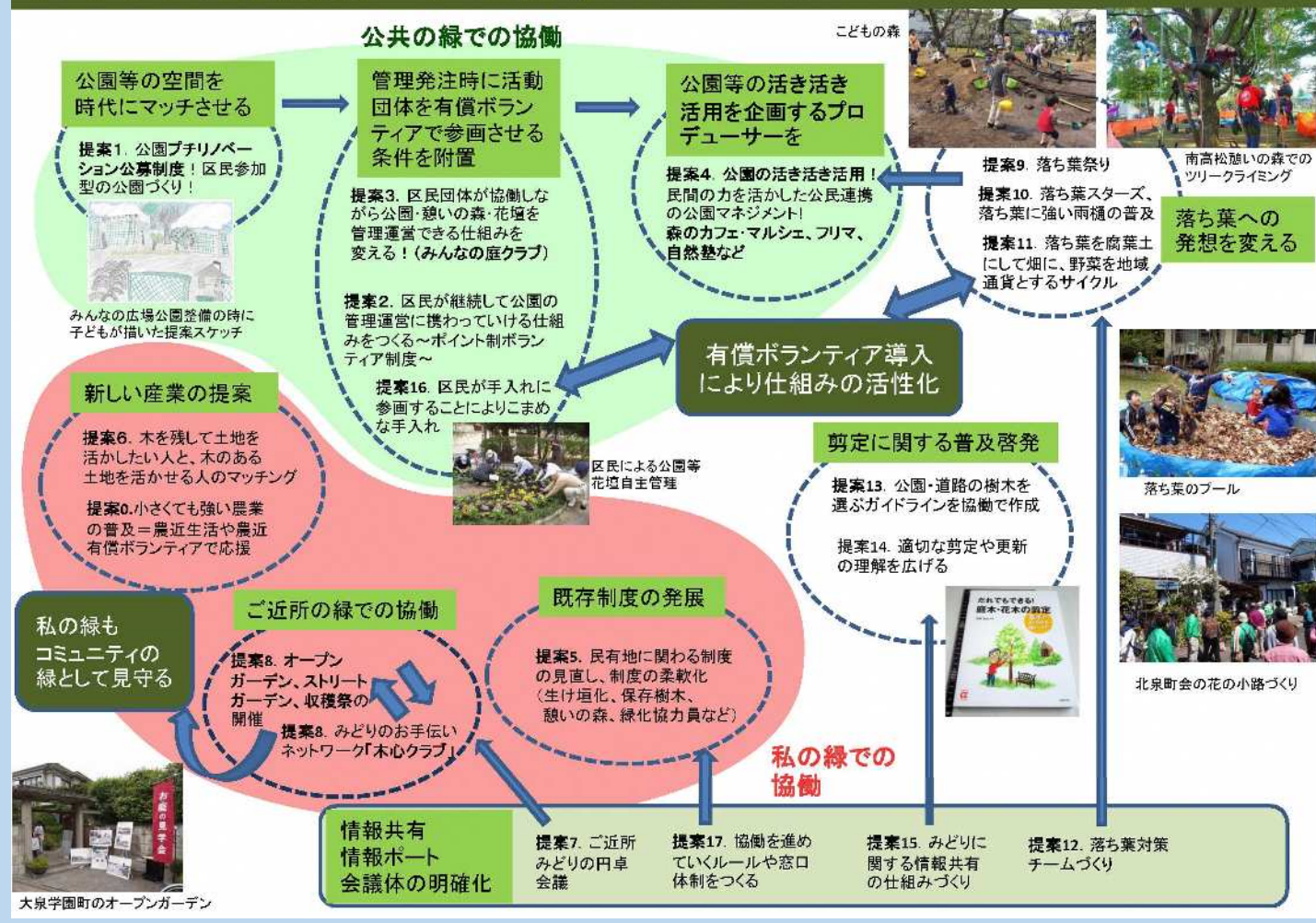


みなさんの意見のまとめとメインファシリテーターとしての整理

みなさんの意見を「17の提案」に整理してみました。さらにそれらの提案が相互にどのような位置づけにあるのかを考えながら、類型化して相互関係を視覚化しました。大きくは4つの島があります。その中の二つは「公共の緑」や「私の緑」を『共の緑』に区民協働で創っていくまとまりです。もう一つは、「情報の共有」等に関係する事柄です。さらに「落ち葉」については特出ししてあります。各島の中でも、色々な連鎖発展を示したり、島同士の関係性についても矢印で示しました。さらに、それらを助案してタイトルを考えてみました。

ねりま共緑協創のまち(案)ー私の緑も公共の緑もコミュニティの緑として協働して創造していくー



全体スケジュール(予定)

年度	平成28年度				平成29年度							
	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	
みどりの区民会議	第1回 12/15			第2回 3/16		第3回 5/11	第4回 6/22		第5回 8/24		第6回 10/12	

みなさまからの声を募集中です！感想やご意見などをお寄せください！
練馬区みどりの区民会議事務局（環境部みどり推進課みどり協働係 中原）
〒176-8501 練馬区豊玉北6-12-1 練馬区役所本庁舎18階
電話 03-5984-2418 FAX. 03-5984-1227 電子メール midorisuisin04@city.nerima.tokyo.jp

第4回 練馬区 みどりの区民会議

「テーマ別・全体でのみどりを守り育てる「協働」や「管理運営」の意見交換」

平成29年6月22日(木) 18:30~20:30

練馬区役所本庁舎地下多目的会議室

第4回では、18名にご参加いただき、前回話し合ったテーマ別の提案内容を班ごとに確認し、重点的に話し合う内容を深めるとともに、全体で区民会議として提案する内容を意見交換し、話し合いました。

<実施内容>

・みどり推進課長のあいさつ、前回の振り返り

<テーマごとのワークショップ>

公園・憩いの森等を区民がもっと自由に利用できるようにしよう！
お庭・屋敷森等を地域の共有財産として親しみながら守っていきこう！
落ち葉・剪定枝を協働で有効活用・リサイクルする仕組みを考えよう！
剪定の仕方等、その場に合った適切なみどりの管理方法を考えよう！

<全員で車座の話し合い>

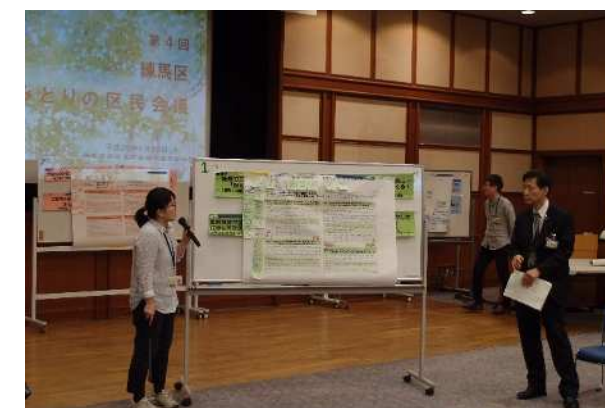
- ・各班からの発表と全体での意見交換
- ・今回のまとめ
- ・今後のスケジュール確認



前回の振り返り



テーマ別のワークショップでの意見交換



各班からのワークショップ意見発表



全体での意見交換と今回のまとめ

これまでの区民会議で話し合ってきた課題やアイデアを基に、4つのテーマごとに区民会議としての「提案」のたたき案を取りまとめた。それらの提案をテーマごとに分かれて内容を確認するとともに、提案を実現させるためにはどうすればよいか、どうすれば協働できるのかをさらに話し合っ内容をも深めていった。その後は全員で車座になって意見交換をし、区民会議としての提案を話し合った。

テーマ 公共のみどり

公園・憩いの森・花壇を区民が もっと自由に使えるようにしよう！

子育て世代や、公園管理団体、みどりに係る活動団体、樹林所有者、学生など様々な立場の方で、提案を実現させるにはどのようにすればいいのか？どうしたら区民が参加してくれるだろうか？という視点で内容を深めていった。

提案1 区民が地域のみどりを調査&ニーズを把握！地域に1つ！「みんなの庭」 ～（仮称）公園プチリノベーション公募制度！区民参加型の公園づくり！～

○話し合いの場づくりはどうしたらできるだろうか？どうしたら区民が参加するだろうか？

- ・町会、自治会に協力を仰ぐ。
- ・小学校に声を掛ける。小学校から言われたら親は参加するのではないか。
- ・子育て世代は困っていることを聞いて区等へ「何とかしてくれない？」の呼びかけくらいまでならできる。
- ・「この指とまれ！方式」で意欲のある人を募る。

○地域の方の「地域」とはどの範囲か？

- ・世代でも変わると思うが、「学区」(約1km程度)
- ・小学生が歩いていける範囲

○今は区内の公園約600か所以上を一律の使用規定で画一的な管理を行っていることが大きな問題である。
公園ごとに利用方法・ルールをつくる。(1年あればできる！)

- ・子ども目線で子どもが守れるルールをつくる。
- ・公園の大きさや管理主体でルールは変えるべき。

○地域のニーズ

- ・子どもが泥あそびをできる場所があるとよい。(プレーリーダーが常駐して思いっきり遊べるこどもの森までではなくても、親が見守ってできるくらいの泥あそびができる場所が近くにあるとよい。)
- ・ボール遊び(子どもたちはサッカーやキャッチボールがしたい！練馬はらっぱ公園(0.27ha)はボール遊び禁止)、ウォーキング、赤ちゃん連れのお母さんが憩えるところ、働くお母さんのための小学5年生以上の居場所となる公園。
- ・遠くても利用したい公園があれば行く！情報がほしい。

提案2 区民が継続して公園の管理運営に携わっていける仕組みをつくる！ ～ポイント制ボランティア制度による地域還元・地域活性化の仕組み！～

○ボランティアで公園に常駐して見守りをするのは難しい。どんな「ポイント制」なら区民は参加するか？

- ・時間的な問題・・・子育て世代は仕事と子育てとで時間がないので、時間的に厳しい。
- ・経済的な問題・・・時給1000円(最低賃金以上)、練馬の商品券(使い勝手がよい、お得感がある。)
- ・例)福祉では、「健康いきいきポイント」という、活動に参加するとポイントがもらえて、ポイントがたまると血圧計など、健康維持に役立つものがもらえるという仕組みがある。

テーマ 民有地のみどり

お庭・屋敷森・農地など 民有地のみどりを地域の共有財産 として育てて守っていきこう！

実際にお庭や屋敷森を所有する方、自分の家の周辺に大きな木がある方、造園業者の方が集まったテーマ②の班では、これまで出たアイデアを実現に向けてより具体的に深めました。

提案1 民有地のみどりに関わる制度の見直し ～区と区民で協議して制度を柔軟に使い切る！～

○夜間に憩いの森を閉める場合、開け閉めは誰がやるのか？

- ・オーナーが365日開け閉めするのは負担が大きい。
- ・かといって、ご近所の方をお願いするのも気が引ける。
- ・シルバー人材センターをお願いできるなら負担は軽いかも。
 - ・世田谷区はシルバーをお願いしているが、市民緑地の数が練馬区と比べて圧倒的に少ない。

オーナーの負担を軽減して公開するためには？

- ・保谷の事例を参考にして、お庭と家との間に柵を設置しては？
練馬区の憩いの森制度では、区が柵を設置している(常時公開が原則)。

公開の回数などを制限して、憩いの森よりも支援内容を軽くする「準憩いの森制度」について

- ・常時公開しないという条件だけだと、応募が殺到してしまうかも。
- ・ただ開放するだけでは人が訪れてくれないかも(現憩いの森も同じ)。
- ・不特定多数に開放するのではなく、団体に対して公開したり、場所を貸し出すという条件にする。
 - ・幼稚園の園庭代わりに使ってもらう。
 - ・学校の行事で使ってもらう。(自然体験学習、移動教室を区外でなく、練馬で！)

「樹木版カットモデル」

- ・造園・園芸学部や農業学部の実習を受け入れる代わりに、剪定費を無料にしてもらう。
完全なアマチュアではないので、高所の作業もお願いできるのでは。
- ・造園業者の研修場として使ってもらう。

提案3 ご近所のみどりについてみんなで話し合う場づくり ～ご近所版！みどりの区民会議(広場)！～

○ご近所で関心ある方を集めるには？

- ・初めは楽しいイベントなどでひきつける。(まちあるき、オープンガーデンなど)
- ・人を集めるには時間が必要。大泉学園町でも2年かかった。積み重ねが大事。
- ・好きなものが同じだと、自然とコミュニティができる。
- ・オープンガーデンで花を通じて会話が広がる。
- ・犬好きな人が近所で顔見知りになり、グループで地域の清掃をはじめた。

テーマ 落ち葉・剪定枝の 有効活用・リサイクル

落ち葉や剪定枝を迷惑物ではなく 練馬の宝・資源としよう！

まず、「区民が自主的に地域の落ち葉を集めてくれるには、何が必要だろうか？」という課題に対し、農家・造園業者・みどりに関わる活動団体の方で、対価や落ち葉を使ったイベントの開催といった解決案について、具体的な意見を出し合った。

※提案の実現には、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」や「放射性物質の暫定許容値」が課題となる。

提案1．地域みんなで落ち葉にふれあい、集める仕組みづくり

～地域の木はみんなの木！落ち葉を通じた地域交流&みどりの保全～

○落ち葉のイベントについて

- ・「みどりの日」ならぬ「落ち葉の日」を定める。・インフィオラータ(花びらアート)のように、落ち葉で巨大な絵を描く。
- ・焼き芋体験(掃除+食) ・昔、焚き火は日常風景だった。それを作り出す。
焚き火関係は、周辺に事前通知しても、通報されることが多く、消防署・警察が確認に来る。(特に警察)
煙を出さずに出来る方法はないだろうか？ 光が丘の防災センターに落ち葉を持ち込んで焼き芋をする。
- ・焚き火の事前通知と一緒に焼き芋券を配布する。
落ち葉の苦情が出ている地域で、まず1度やってみる。

提案3．落ち葉は宝！落ち葉をゲット！落ち葉・剪定枝の有効活用・リサイクル作戦

～落ち葉は腐葉土や野菜と交換！みどりと農のまち練馬のイメージUP～

○地域の人が協力して落ち葉を集めたいには何が必要なのか？ 例えば、区民が農家の周辺の落ち葉を掃除してくれたら、農家の野菜を対価として出せるだろうか？

<対価について>

- ・落ち葉を掃除して、持ち込んでくれた対価に、野菜を出せる農家はある。ただし、落ち葉はゴミであるという考えの農家もいる。 区に、認識を変える働きかけをしてもらいたい。
どこかで腐葉土化して、農家に持ち込めば、落ち葉はゴミであると考える農家も協力してもらえるのか？
腐葉土になると重くなり扱いづらくなるので、落ち葉で持ち込んでくれた方がよい。
 - ・「落ち葉コイン」を対価とし、野菜だけではなく、様々な商品と交換できるようにする。
 - ・「経験」も対価ではないか。例えば、小学校の授業として落ち葉掃除をし、農家へ持ち込み、堆肥化していく過程を見学してもらう。
- 農地での腐葉土化について 落ち葉の腐葉土化に石が混ざるのが課題である。 腐葉土化に適した落ち葉を集めてもらうにはどうすればいいだろうか？
- ・周辺住民に落ち葉の集め方を個々に話していく。(石は取り除いてほしい等) 地域とのコミュニケーションを取る。
 - ・みどりの恩恵を受けていることをPRし、落ち葉に対する意識を変える。
 - ・取り除いて集めてくれたら、野菜がもらえる。
 - ・取り除いた不純物も活用する。(例:砂利を造園業に使用)

提案4．みどりの区民会議で「落ち葉対策チーム」をつくろう！

～区民協働で落ち葉を活かす仕組みを考え、早く行動に移そう！～

落ち葉対策チームについて

- ・落ち葉に対する総合窓口として設立するのはどうだろうか。(エコアドバイザーのような)
- ・イベント運営・募集、落ち葉の情報の窓口を担う。

テーマ 剪定・管理方法

剪定や具体的な維持管理方法を より良くし、質の高いみどりにしよう！

理想のみどり空間やその管理を具体的に挙げながら、その空間イメージを地域で合意形成するアイデアや参加しやすい維持管理活動について意見を交わしました。

提案1．公園・道路の樹木を選ぶ際のガイドラインを協働で作る

～これからの公園や道路に植えるのにぴったりな樹木選びのコツを区と区民と一緒に考え、冊子にまとめよう！～

目指すみどりの姿の方向性についてのアイデア

- ・剪定が少なく済む樹木。
- ・苦情が出ない樹木。
- ・一方で、中低木ばかりだと「日陰がない」という苦情が出ることも。
- ・花の咲く公園空間(ツツジが一気に咲く、桜がきれい...等)
- ・テーマのある公園(たとえば花のきれいな公園、原っぱをメインにした公園...等)
- ・桜並木。

ビジョンを持った空間づくりを。 ビジョンをはっきり打ち出していれば、納得できる。

合意形成についてのアイデア

- ・樹種選びや設計の方針、維持管理の方策など、ルールづくりが必要(区も区民も運用しやすいもの)。
- ・近くに住んでいる人、ちょっと遠くに住んでいる人、(もしかしたら通りすがりの人も)お互いの苦情を話せる場があるとよい。

ある程度の苦情(木から落ちた、虫が降ってきた等)は、自己責任の範囲では。

きれいな桜を楽しむのであれば、その裏側として虫などがいるのは仕方がない。

- ・区民の意見を聞きすぎると結局何も決められなくなってしまう。方針を区の方できちんと持つことが大切なのではないか。

維持管理についてのアイデア

- ・ビジョンをはっきり...ということと関連して、「しばらく剪定をしなくていい公園」があってもいいのでは。
- ・本来、剪定するべき時に手入れができず花が咲かない等の問題がある。
区民ボランティア向け講習会の拡充。
- ・設計時に将来ビジョンをつくる。大きくなったら樹木を間引くことを想定して設計する等。時期をみて思いきった更新が必要などころもある。
- ・設計の時によく考えていたとしても、時代によって、求められる公園の機能・使われ方や考え方はどんどん変わっていく。実態に合わせて更新の作業をしていくことも必要。
子どもが思いもよらなかったところを通り道にして、その植栽が何度植えてもダメになってしまうというようなことはよくある。
- ・大きく変えることはお金が掛かるので、時期やタイミングのことも考慮できるとよい。
- ・業者が行っている中低木の管理を区民が担うことで費用を浮かせ、そのぶん区民ではできない高木の管理費用を業者にまわすことができれば、高木の剪定の質を上げられるのではないか。

全体での意見交換のまとめ

ボランティア活動に対する対価について

- 若い世代** ・子育てしていると、ボランティアまで手が回らない
- ・時間に余裕のある年代になったら手伝う、という支え合いのサイクルができれば...
 - ・コーディネート役も必要
 - ・仕事の経験を積み、子育てなども手が離れた40~50代の人でコミュニティビジネスとして仕事(副業のような)にできないか?費用は減るし、効果は増える。
 - ・どれだけ「子どもたちのために...」ということを理解してもらえるか?がポイント。
- 年配の世代** ・無償でボランティア活動をすることが誇りになっている一方で、無償で続けることの難しさも感じる。やりがいが必要。
- ・ボランティアより責任を持って仕事を担う役(有償ボランティア)も必要。
 - ・有償ボランティアがここ数年で増えたのは、時代の流れも関係ある。年金の減額によって、有償ボランティアが社会福祉(特に高齢者福祉)という意味も持ちはじめたのでは。
- 農家** ・現在、週1日ボランティアの受け入れをしている。お金は支払えないが、代わりに採れたて野菜を渡している。今の時代は対価を出さないと難しいのかなと感じる。

テーマ 提案1「地域でニーズを把握!地域に1つ!『みんなの庭』となる公園づくり」について

手を挙げてもらえるしくみについて

- ・人集めは町会がやるのがいいのでは。目的としくみをしっかりさせて人集めを。

公園のプランニングについて

- ・いきなり大きいプランではなく現状に合わせた小さな改修(植え替えなど)でも良いのでは。

公園ごとのルールづくりについて

- ・公園の意義(何のためにあるのか?)を新住民も共有する必要がある。チームづくり等の工夫も必要!

テーマ 提案2「消失するみどりを少しでも減らす方法」について

- ・土地が欲しいのは不動産屋。直接買い手とつながれるコミュニティがない。
- ・地域の畑は、ほとんどが建て売りになる。木がある土地を欲しいという人はあまりいないのでは。

テーマ 提案2「若者による高齢者の庭の落ち葉掃き&雨樋の落ち葉取りの仕組みづくり」について

- ・地域の教育機関と連携しては。
- ・学生を集めるなら、バイトにするか、授業の一環として単位認定をするか、どちらかの必要がある。

みどりの区民会議からの17の提案(たたき案)

提案1. 区民が地域のみどりを調査&ニーズを把握!地域に1つ!「みんなの庭」
~(仮称)公園プチリノベーション公募制度!区民参加型の公園づくり!~

提案2. 区民が継続して公園の管理運営に携わっていける仕組みをつくる!
~ポイント制ボランティア制度による地域還元・地域活性化の仕組み!~

提案3. 区民団体が協働しながら公園・憩いの森・花壇を管理運営できる仕組みを変える!
~みどりを楽しみながらつながる「みんなの庭クラブ」~

提案4. 公園の自由化! 民間の力を活かした公民連携の公園マネジメント!
~森のカフェ・マルシェ、フリマ、自然塾など練馬らしさをアピール~

提案5. 民有地のみどりに関わる制度の見直し
~区と区民で協議して制度を柔軟に使い切る!~

提案6. 消失するみどりを少しでも減らす方法をつくる!
~木を残して土地を活かしたい人と、木のある土地を活かせる人をつなぐ仕組み~

提案7. ご近所のみどりについてみんなで話し合う場づくり
~ご近所版!みどりの区民会議(広場)!~

提案8. ご近所の人がみどりの管理を気軽に手伝える仕組みをつくる!
~みどりのお手伝いネットワークづくり「(仮称)木心仲間応援制度」~

提案9. 地域みんなで落ち葉にふれあい、集める仕組みづくり
~地域の木はみんなの木!落ち葉を通じた地域交流&みどりの保全~

提案10. 若者による高齢者の庭の落ち葉掃き&雨樋の落ち葉取りの仕組みづくり
~(仮称)落ち葉スターズの出動!雨樋や落ち葉の課題解決&多世代交流~

提案11. 落ち葉は宝!落ち葉をゲット!落ち葉・剪定枝の有効活用・リサイクル作戦
~落ち葉は腐葉土や野菜と交換!みどりと農のまち練馬のイメージUP~

提案12. みどりの区民会議で「落ち葉対策チーム」をつくろう!
~区民協働で落ち葉を活かす仕組みを考え、早く行動に移そう!~

提案13. 公園・道路の樹木を選ぶ際のガイドラインを協働で作る
~これからの公園や道路に植えるのにぴったりな樹木選びのコツを区と区民で一緒に考え、冊子にまとめよう!~

提案14. 適切な剪定についての理解を広げる
~分かりやすい形(読み物や看板など)を工夫して、樹木の剪定や管理方法について知らせよう!~

提案15. 地域のみどりについて区と住民が情報共有ができる仕組みをつくる
~「どうしてこれを切ってしまったの?」という疑問やすれ違いをなくすために、コミュニケーションができる仕組みをつくろう!~

提案16. 区民と協働でみどりをこまめに管理する
~剪定講座なども開きながら、より区民がみどりの管理に関われるようにしよう!~

提案17. 協働を進めていくためのルールや窓口体制をつくる
~「業者委託」ではなく、「協働」で公共のみどりの管理をしていくために、約束事や会議の仕方を工夫しよう!~